

## 平成 20 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

### － 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

平成 20 年 4 月 22 日（火）に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要を示します。

申すまでもなく、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。したがって、調査結果は国や他の自治体と比較することではなく、本市の教育施策の成果と課題の把握等の一つの指標とすることを考えています。また、学習や生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導方法の充実・改善、児童生徒一人一人の学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいります。

### ◎川崎市の教科別調査結果

#### 1 市立学校教科別平均正答率

(%)	小学校（6年）		中学校（3年）	
	国語	算数	国語	数学
A問題	67.1	72.5	73.4	61.9
B問題	53.7	55.0	61.7	47.7

\* A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

#### 2 全体の傾向

本市においては、「上記 1」の 8 項目（各教科 A、B 問題）のいずれの平均正答率も全国に対して±5 ポイントの範囲内にあり、これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

### ◎各教科の概要（◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題のある点）

#### 【小学校 国語】

本市の小学校国語は、全国と同様の結果であり、A問題とB問題の差が 10 ポイント以上開いている。これは今回の調査問題が、これまでの様々な調査で課題があったとされるものを設問に盛り込んだため、全体的に難易度が高まったことが原因と思われる。課題は存在するものの、全体的には全国との関係において国語の力が上向きの傾向にあり、特に知識や技能を活用するB問題の結果について改善が見られる。

#### 話すこと・聞くこと

◇スピーチの組み立ての工夫をとらえること

◇下書きの文章と発表原稿を比べ、発表しやすく工夫したところをとらえること

#### 書くこと

◇文章の組み立てを理解すること、それぞれに小見出しをつけること

◆目的に応じて必要な情報を取り出して、効果的に書くこと

#### 読むこと

◇物語を読んで、登場人物の特徴をとらえること

◆事実と感想、意見読み分け、語句と語句のつながりをとらえて内容を理解すること

#### 言語事項

◇当該学年までに配当されている漢字を正しく読むこと

◇同音異義、同訓意義の漢字を使い分けること

### 【小学校 算数】

本市の小学校算数は、全国や県と同様の結果、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国的にA問題に比べB問題の正答率が低くなっているが、これは、B問題の内容が基礎基本を活用する問題であるためと考える。本市は全国と同様の傾向を示しているが、B問題の正答率は、全国に比べて良好な傾向が見られる。日頃の学習指導において、思考力、表現力の育成を大切にしている結果ではないかと考えられる。

- 数と計算** ◇整数、分数の四則計算をすること
  - ◆小数の乗除の計算の乗・除数と積・商との関係が分かること
- 量と測定** ◇平行四辺形の面積を求めること
  - ◆決められた重さや面積の大きさを、生活のものから探すこと
- 図形** ◇ひし形や三角形の定義や性質が分かること
  - ◆図形を変えると面積はどうなるかを発展的に考えること
- 数量関係** ◇グラフをよんだり、かいたりすること
  - ◆2つのグラフを対応させながら読み取ること

### 【中学校 国語】

本市の中学校国語の全体的な結果は、全国や県とほぼ同様の結果となっている。A問題に比べB問題の正答率が10ポイント程度低くなっているが、これは、B問題のような形式の問題が、生徒にとってなじみが薄かったこと、「読むこと」と「書くこと」の2つの領域に関わる内容であったこと、また、一般的な文章とは異なる非連続テキストと呼ばれる情報（図、グラフ、カード等）を扱う問題であったことなどによるものと考えられる。

- 話すこと・聞くこと** ◇話し合いの方向性をとらえて適切な発言をすること
- 書くこと** ◇文章を論理的に整理して理解すること
  - ◆複数の資料を根拠に、条件に応じて自分の考えを書くこと
- 読むこと** ◇文章の展開や登場人物の心情を読み取ること。
  - ◆条件に合わせて書くために、必要な情報を読み取ったり取り出したりすること
- 言語事項** ◇漢字を読んだり書いたりすること

### 【中学校 数学】

本市の中学校数学の全体的な結果は、A問題に比べB問題の正答率が低くなっており、全国や県とほぼ同様の傾向を示している。これは、B問題が事象を数学的にとらえて考察したり、数学的に表現したりする数学的な思考力や表現力を問う問題であったことによるものと思われる。各問題を見た場合、基本的な計算問題、図形に関する基礎的な知識や理解を問う問題については良好な状況といえる。一方、文字式の意味をよみとること、反比例のグラフから式を求めること、結論が成り立つ理由や結論を導く方法を説明する問題などに課題が見られる。

- 数と式** ◇一次式を計算すること、一次方程式や連立方程式を解くこと
  - ◆文字式を事象と関連付けてよみとること、文字式を用いて説明すること
- 図形** ◇図形の性質を証明するときに、平行線の錯角や同位角が等しいことを根拠として利用すること
  - ◆2つの線分の長さが等しいことを三角形の合同を利用して証明すること
- 数量関係** ◇場合の数を求めるために樹形図を利用すること、基本的な確率を求めること
  - ◆事象を数学的な表現を用いて説明することや問題解決の方法を数学的に説明すること

## ◎生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果より（抜粋）

○朝食を毎日食べている。 . . . . .	小学校	94.3%	中学校	89.1%
○自分にはよいところがあると思う。 . .	小学校	69.5%	中学校	53.8%
○将来の夢や目標を持っている。 . . . .	小学校	82.9%	中学校	68.7%
○テレビゲームの時間が2時間以上（※） . .	小学校	24.6%	中学校	26.1%
○携帯電話での通話やメールをしている。	小学校	42.4%	中学校	75.3%
○学校の授業時間以外の勉強時間。（※）				
◎2時間以上 . . . . .	小学校	35.5%	中学校	38.1%
◎30分以下 . . . . .	小学校	21.1%	中学校	21.5%
○家で自分で計画を立てて勉強している。	小学校	52.6%	中学校	31.9%
○家の人（兄弟姉妹を除く）と普段夕食を食べる。				
小学校	83.4%	中学校	76.0%	
○家の人と学校での出来事について話をしている。				
小学校	67.4%	中学校	54.5%	
○学校で友達と会うのは楽しい . . . . .	小学校	96.5%	中学校	94.4%
○学校で好きな授業がある。 . . . . .	小学校	92.8%	中学校	76.8%
○今住んでいる地域の歴史や自然に関心がある。				
小学校	43.1%	中学校	19.7%	
○近所の人にあいさつをしている。 . . . .	小学校	85.4%	中学校	82.3%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。 .	小学校	90.4%	中学校	87.3%

- ・ 数値には「どちらかといえば」「時々」を含む
- ・ （※）印は「普段（月～金）1日当たりの時間」

## ◎今後の対応

教育委員会としては、各学校が調査結果から明らかになった成果を更にのばしたり、課題の解決に向け取り組めたりできるよう、指導方法の充実・改善のための指導資料の作成や各種研究活動等を通じて啓発と支援に努めます。

### 【問い合わせ】

教育委員会学校教育部指導課  
指導課長 200-3284（内線 51301）

# 平成 20 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

## － 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

### ○調査の目的

- 1 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。
- 3 各学校が各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

### ○調査の実施学年

小学校第 6 学年及び中学校（特別支援学校中学部を含む）第 3 学年

### ○教科に関する調査

〔国語 A、算数・数学 A〕・・・主として「知識」に関する問題

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

〔国語 B、算数・数学 B〕・・・主として「活用」に関する問題

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容
- ・様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

### ○児童生徒に対する質問紙調査

〔調査内容〕

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### ○調査実施日

平成 20 年 4 月 22 日（火）

### ○教科に関する調査結果の概要

- ・本市では、小学校、中学校の国語、算数・数学それぞれの問題 A・問題 B において、いずれの平均正答率も、全国のものに対して±5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差を認められないとする範囲内であるので、本市は全国と同様の結果であるといえる。
- ・学んだことを実生活で生かしていくことが求められるが、B 問題の調査結果を踏まえると、そのような学習場面の設定や授業展開が十分であるとは言い切れない。基礎的・基本的な知識・技能の習得だけでなく、思考力、判断力、表現力等をはぐくむ授業改善が一層求められている。

## ① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりであるが、領域ごとの考察については、個々の問題について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

「◇」印の問題：よい状況と考えられる問題。

「◆」印の問題：課題があると考えられる問題。

### 小学校 国語

#### ○調査問題の趣旨・内容

国語A 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■同音異義や同訓異義の漢字を使い分ける。  
■文書の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲する。  
■スピーチの組み立ての工夫をとらえる。  
■グラフから分かったことをメモに取る。  
■文章に合わせて、小見出しを書く。

国語B 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■インタビューの仕方や内容について評価した理由を書く。  
■登場人物の心情と場面についての描写を、叙述と関係付けて読む。  
■「図書館だより」の内容を読み、自分の考えを書いたり、案内状に書き換えたりする。  
■二つの意見文を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえる。

#### ○本市の傾向

小学校国語においては、A問題、B問題ともに全国と同様の結果であり、A問題とB問題の差が10ポイント以上開いている。これは、B問題の形式が児童にとってなじみが薄かったこと、内容においては2つ以上の領域を問われていることなどが原因として考えられる。

また、選択、短答、記述の3形式に分かれた問題形式別では、記述式の正答率が全国の正答率を上回っている一方、無解答率も全国と同様の結果であり課題が見られる。

領域ごとの結果の概要を次に示す。

#### 話すこと・聞くこと

スピーチの組み立てや発表の工夫をとらえることは相当数の児童ができている。インタビューの場面においても、相手や目的、話の流れに応じて内容や質問の順序を考え、適切な言葉を用いることを相当数の児童が理解している。

#### 書くこと

文章の組み立てを理解することや、それぞれに小見出しをつけることについては、相当数の児童が理解している。一方、文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲することについては課題が見られる。また、目的や課題に応じて、テキスト（図書館だより）や非連続テキスト（グラフ）から情報を取り出し、書き換えることにも課題が見られる。

### 読むこと

物語を読んで登場人物の特徴をとらえることは相当数の児童が理解している。一方、資料から必要な情報を取り出して、自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりすることには課題が見られる。

### 言語事項

出題された漢字の読みについては、相当数の児童が理解している。漢字の書きや同音異義、同訓異義の漢字の使い分けについては、日常生活で見聞きする頻度の高いものは、相当数の児童が理解している。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

### 話すこと・聞くこと

- ◇（A）スピーチの組み立てをカードにメモし、実際のスピーチに合わせて組み立てをとらえることは、80.2%の児童が理解している。
- ◇（B）インタビューの場面で、相手や目的に応じて内容や順序を考えながら適切な言葉遣いで聞くこと、相手の意図を考えて反応を示したり、内容を深めたりして聞くことは、相当数の児童が理解している。

### 書くこと

- ◇（A）文章の内容に合わせて、簡潔に適切な小見出しを書くことについては、相当数の児童が理解している。
- ◆（B）目的に応じて資料から必要な情報を取り出し、他の形式に書き換えることや、グラフから分かったことを基にしてテーマや条件に即して自分の考えを書くことについては全国と同様の課題がある。
- ◇（B）同じテーマの2つの意見文を比べて読み、文章の組み立てとして適切な内容を選択する問題においては、よく理解できており、全国との関係において+5ポイント以上の有意差を見ることができる。

### 読むこと

- ◇（B）読んだ本の内容を紹介するために登場人物の特徴についての描写をとらえることにおいて、馴染みのある作品については、73.7%の児童が理解している。
- ◆（A）事実と感想、意見を読み分け、語句と語句のつながりをとらえて内容を理解すること、筆者の伝えたいことを吟味して段落の内容をとらえることについても全国と同様の課題が見られる。
- ◆（B）一文の中に二つの内容、事柄が描かれている場合、それを取り出して分けて示すことに全国と同様の課題が見られる。

### 言語事項

- ◇（A）漢字の読みの問題では、出題された「保護」、「承知」、「勢い」について相当数の児童が理

解できている。

- ◇ (A) 漢字の書きについては、日常生活での使用頻度の高いものについては、相当数の児童が理解している（「投」82.0%）。
- ◇ (A) 文脈における意味を考えながら、同音異義、同訓異義の漢字を使い分けることについては、日常生活での使用頻度の高いものについては、相当数の児童が理解している（「帰り」88.0%）。「開場」については43.1%で課題であるが、全国との関係において+6ポイント以上の有意差を見ることができる。

## 小学校 算数

### ○調査問題の趣旨・内容

算数A 数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■整数、小数、分数の計算、四則混合した計算をする。

■与えられた分数と等しい大きさの小数を選ぶ。

■何倍かを求めるのに、どのような式を用いればよいかを考え、答えを求める。

■与えられた重さや面積の大きさの見当をつけて、同じ重さや面積のものを日常生活の中から選ぶ。

■ひし形を対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える。

■円グラフをよんだり、割合を計算で求めたりする。

算数B 基礎的・基本的な知識・技能を活用して、多面的にもものを見たり論理的に考えたり、事象を数理的に考察、処理したりして解決することができるかどうかをみる問題

(例) ■情報を整理選択し、示された判断が正しい理由を記述する。

■グラフから必要な情報をよんだり、選択したりする。

■図形の各頂点を中心に円を描く。図形が変わると、それに伴って円の面積がどのように変わるかを考える。

■表から規則性を読み取り、問題を解決する。

■示された解決方法を理解し、別の問題の解決の仕方を、その解決方法を基に説明する。

■事象の様子を2つのグラフで表し、その2つのグラフの対応を考えて判断する。

### ○本市の傾向

本市の小学校算数の全体的な結果は、全国と同様の傾向であるといえる。

全国的にA問題に比べB問題の正答率が低くなっているが、これは、B問題の内容が基礎的・基本的な知識・技能を活用する問題であるためと考える。B問題の正答率は、昨年度と比べてかなり低下したが、これは昨年度と比べ、難易度が高かったことが理由であると思われる。本市の平均は全国と比べて、A問題は全国とほぼ同じ、B問題では若干上回っている。B問題において比較的良好な結果が得られたのは、本市が進めている「考える力を育てる教育」の成果であると考えられる。また、近年、校内研究で算数を実施する学校が増え、学校を挙げて児童の算数の思考力や表現力を伸ばそうと努力していることの成果といえる。

領域ごとの結果の概要を次に示す。

#### 数と計算

整数、小数、分数といった数に関わる四則の計算ができるかどうかを見る問題は、相当数の児童ができています。また、十進位取り記数法や分数と小数の関係など、数についての理解を見る問題の正答率も高い傾向にある。一方、小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係についての理解を見る問題では、正答率が低く課題が見られる。

#### 量と測定

公式を用いて図形の面積を求める問題は、おおむね良好である。しかし、大まかな見当をつけ見通しを持って考えるなど、基本的な量の感覚が身に付いているかどうかを見る問題では課題が見られる。

## 図形

三角形や四角形の定義や性質の理解については、おおむね良好である。図形の性質を基に面積の関係をとらえ、その理由を数学的に表現する問題では、図形を変えて発展的に考えること、図形の性質を基に筋道立てて考えること、その理由を言葉や式を使って表現することなどに課題が見られる。

## 数量関係

円グラフや棒グラフをよむ問題については相当数の児童ができている。グラフの特徴を基に相違点をよみとり、それを言葉や数を使って表現することは課題が見られる。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

## 数と計算

- ◇ (A) 整数の減法「 $132-124$ 」、整数の乗法「 $52\times 41$ 」整数と小数の加法「 $6+0.5$ 」の正答率は良好である。小数÷整数「 $68.4\div 36$ 」、整数の四則混合計算「 $3+2\times 4$ 」については相当数の児童ができている。
- ◇ (A) 「10を6個、1を8個、0.1を3個合わせた数を書く」問題の正答率は90.2%で、十進位取り記数法についてよく理解している。
- ◆ (A) 小数の乗除の計算で、「答が被乗数や被除数より大きくなるものを選ぶ」問題の理解には課題が見られる。
- ◆ (B) どの2つの戸棚を選んで置いても、ドアを開け閉めするとドアが戸棚に当たってしまうわけを書く問題は、与えられた情報を整理したり選択したりして筋道を立てて考えることは、全国と同様に課題が見られる。

## 量と測定

- ◇ (A) 「底辺8cm、高さ6cm、斜辺7cmの平行四辺形の面積を求める式と答えを書く」問題は相当数の児童が理解している。
- ◆ (A) 「重さが約1kgのもの」と「面積が約 $150\text{ cm}^2$ のもの」を選ぶ問題は、正答率がそれぞれ65.4%と20.5%と低く、量の大きさについての感覚に課題が見られる。

## 図形

- ◇ (A) 「ひし形を1本の対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える」問題は、おおむね良好であり、ひし形、二等辺三角形の定義や性質が理解できている。
- ◇ (B) 開け閉めするドアの動きが円の一部であることを見出すことは、86.1%の児童ができています。

## 数量関係

- ◇ (A) 「円グラフから科学の本の冊数の割合をよみとる」問題は、相当数の児童ができている。
- ◇ (B) 「表から身長伸びを求め、棒グラフにする」問題の正答率は高く、おおむね良好な結果である。
- ◆ (B) 「身長の変化を表す折れ線グラフの一部分と、身長伸びを表す棒グラフの一部分を比べてその違いを書く」問題の正答率は23.5%となっている。2つのグラフを対応して見るという経験が少ないことによるものと考えられる。

## ○調査問題の趣旨・内容

国語A 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■インタビューの展開に即した質問を書く。  
■意見文に対する評価として適切なものを選択する。  
■記述の一部を、文章中の他の言葉を使って書き換える。  
■国語辞典で調べたことをもとに、慣用句の意味を書く。

国語B 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■新しい情報を読み、古い情報を条件にしたがって書き換える。  
■登場人物が大切にしていると考えられることを、四字熟語と関連付けて書く。  
■「全然」の使い方についての自分の考えを、根拠を明らかにして書く。

## ○本市の傾向

本市の中学校国語の全体的な結果としては、A問題に比べB問題の正答率が10ポイント程度低いという結果であり、全国と同様の結果を示している。これは、B問題のような形式が生徒にとってなじみが薄かったこと、「読むこと」と「書くこと」の2つの領域に関わる内容であったこと、また、一般的な文章とは異なる非連続テキストと呼ばれる情報(図、グラフ、カード等)を扱う問題であったこと等によるものと考えられる。その中でもB問題は、本市の正答率は国のものより、全ての問題において上回っていた。

領域ごとの結果の概要を次に示す。

### 話すこと・聞くこと

話し合いの方向をとらえた適切な発言をすること、また、インタビューで心がけることや適切な質問をすることについては、相当数の生徒が理解している。

### 書くこと

文章を分かりやすくするために論理的に構成を整理していくことについては、概ね良好である。一方、複数の情報から必要なものを取り出し、それを自分の考えの根拠にして意見文を書くことについては課題が見られる。

### 読むこと

文章の展開や登場人物の心情を読み取ることについては概ね良好である。また、古文の意味のまとまりを意識して読むことや歴史的仮名遣いを正しく読むことについても概ね良好である。

### 言語事項

文章に即した漢字の読み書きや語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことについては、相当数の生徒が理解している。同様に、漢字の書体の違いや行書の特徴についても、相当数の生徒が理

解している。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

### **話すこと・聞くこと**

- ◇ (A) 話し合いの方向をとらえて司会者の適切な発言を選択することは、相当数の生徒ができて  
いる。
- ◇ (A) 効果的なインタビューをするために準備をし、調べたことなどを適切に生かすこと(76.4%)  
や、話し手の意図を理解し、インタビューの展開を考えて、適切な質問をすること(91.4%)  
については相当数の生徒が理解している。

### **書くこと**

- ◇ (A) 同じテーマの2つの意見文を比べて読み、適切な段落を意識して文章の論理の展開を考え  
ることについては、相当数の生徒が理解している。
- ◆ (B) 複数の文章やグラフから必要な情報を正しく読み取り、その情報を根拠として示しながら、  
自分の立場を明確にして意見を書くことについては全国と同様の課題が見られる。

### **読むこと**

- ◇ (A) 古文の中で文章のまとまりをつかみ、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題で  
は、全市的によく理解できており、正答率が80.0%以上である。
- ◇ (B) 目的意識をもって文学作品を読み、登場人物の人間関係を整理したり、登場人物の心情を  
読み取ったりすることは、相当数の生徒ができています。
- ◆ (B) 条件に合わせて自分の考えを書くために、複数の資料から必要な情報を読み取ったり、取り  
出したりすることにおいては全国と同様の課題が見られる。

### **言語事項**

- ◇ (A) 漢字の読み書きに関しては、語句によって正答率に差異がある。「予測」の書きは59.5%、  
「背景」「保つ」の書きはいずれも73.7%、74.0%である。一方、読みの問題では、出題  
された漢字(「突破」、「音響」、「祈る」)の読みを相当数の生徒が理解している。
- ◇ (B) 文章に表れているものの見方や考え方について、四字熟語(「以心伝心」、「不言実行」)  
を手がかりにしながら理解したり、具体例を示しながら効果的に説明したりすることにつ  
いては全国と同様の傾向である。

### ○調査問題の趣旨・内容

数学A 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■正の数と負の数の計算、整式の計算をする。一元一次方程式、連立二元一次方程式を解く。

■正の数・負の数、文字式、方程式の意味をよみとる。

■柱体と錐体の体積の関係を答える。三角形の合同条件を根拠に合同な三角形を選ぶ。

■事象の中から、比例しているもの反比例しているものを選ぶ。

数学B 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■男性と女性の上腕骨と身長の関係を表す式を基に、上腕骨の差とその差による男女の身長の差の大小について説明する。

■2けたの自然数の十の位と一の位の数を入れ替えた数の和の性質から、差の性質を予想し、その予想を的確に表現できるかどうかをみる。

■三角形の合同を利用して図形の証明をする。

■与えられた情報の特徴をとらえ、データにはない部分のデータを予想する方法を示す。

### ○本市の傾向

本市の中学校数学の全体的な結果としては、A問題に比べB問題の正答率が低くなっており、全国や県と同様の傾向を示している。これは、B問題が事象を数学的にとらえて考察したり、数学的に説明したりする数学的な思考力や表現力を問う問題であったことによるものと考えられる。

各問題を見た場合、基本的な計算問題、図形に関する基本的な知識や理解を問う問題については、良好な状況といえる。一方、文字式の意味をよみとること、反比例のグラフから式を求めること、結論が成り立つ理由や結論を導く方法を説明する問題などに課題が見られる。

領域ごとの結果の概要を次に示す。

#### 数と式

一次式の計算、代入して式の値を求めること、一次方程式や連立方程式を解くなどの表現・処理に関する問題については、相当数の生徒ができています。一方、文字式が表す意味を具体的な事象と関連付けてよみとること、数学的な表現を用いて説明したり方針にもとづいて説明したりすることについては課題が見られる。

#### 図形

平行線に直線が交わってできる角の性質の理解に関する問題については、相当数の生徒ができています。一方、 $n$ 角形の内角の和を求める公式の意味の理解、2つの線分の長さが等しいことを三角形の合同を利用して証明する問題については課題が見られる。

## 数量関係

一次関数の具体的な事象について表したグラフから2つの数量の対応をよみとること、樹形図の意味や使い方、事象の起こりうる確率については、相当数の生徒ができています。一方、反比例のグラフから式を求める問題、与えられたデータを基にデータでは与えられていない数値を推測する方法を説明する問題については課題が見られる。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

## 数と式

- ◇ (A) 「分数や一次式の計算」「一元一次方程式や連立二元一次方程式を解く」問題については、相当数の生徒ができています。
- ◆ (A) 「 $3a+4b$  によって表されるものを選ぶ」問題の正答率は 31.6%で、全国の結果と同様に低い。誤答として「3 g の袋に a g の品物を入れ、4 g の袋に b g の品物を入れたときの全体の重さ」を選んだ生徒が多い。文字式を具体的な事象を関連付けてよみとることについて課題が見られる。

## 図形

- ◇ (A) 「三角形の内角の和が  $180^\circ$  になること」を証明する中で、根拠として用いられる「平行線の錯角や同位角が等しいこと」については、相当数の生徒が理解している。
- ◇ (A) 「円錐と円柱の体積を比較し、正しい図を選ぶ」問題の正答率は 53.6%である。
- ◆ (B) 「2つの線分の長さが等しいことを三角形の合同を利用して証明する」問題の正答率は 41.6%で、無答率は 31.7%である。図形の性質を方針に基づいて証明することに課題が見られる。

## 数量関係

- ◇ (A) 「場合の数を求めるための正しい樹形図を選ぶ」問題、「赤玉3個、白玉2個の中から1個の玉を取り出したとき、赤玉である確率を求める」問題については、相当数の生徒が理解している。
- ◆ (A) 「反比例のグラフから式を求める」問題での正答率は 27.3%である。反比例の表、式、グラフの関係についての理解に課題が見られる。
- ◆ (B) 「上腕骨の長さの差が等しいときの男性と女性の身長の違いが大きくなる方を選び、その理由を説明する」問題、「何箇所かの標高と平均気温のデータをもとに、他の標高の場所の平均気温を求める方法を説明する」問題の正答率は低い。事象を式の意味に即して数学的に解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することや、問題解決の方法を数学的に説明することについて課題が見られる。

## ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

\* 特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば・・・」や「時々・・・」と回答した割合も含む。

### 小学校 第6学年

#### 1 基本的な生活習慣

- 毎日規則正しい生活を送っている児童が多い。
  - ・「ほぼ毎日朝食を食べている」児童は9割を超える。
  - ・毎日「ほぼ同時刻に就寝している」児童は7割近くであり、「ほぼ同時刻に起床している」児童は8割を超える。

#### 2 自尊意識

- ものごとを最後までやりとげた喜びを感じている児童は多く、難しいと思われることに進んで挑戦する児童も7割近くいる。また、「どちらかといえば・・・」までを含めると3割程度の児童が、自分の良いところを見出せないとしており、これは、全国でも同じ傾向である。
  - ・「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある」児童は9割を超える。また、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」児童は7割近くである。
  - ・「将来の夢や目標をもっている児童」は6割を超え、「どちらかといえば・・・」までを含めると8割を超える。
  - ・「自分には良いところがあるとは全く思わない」と、自己有用感をほとんど感じていないと思われる児童が1割近くいる。

#### 3 生活の中での時間の使い方

- 平日（月～金曜日）に「午前7時以前から起きている」児童は5割程度であり、「午前7時30分以前」を合わせると、9割を超える。一方、就寝時刻については、「午後10時以降」という児童は7割であり、遅い傾向がある。また、平日や休日に勉強をしたり、学習塾に通ったりする児童が多い傾向であるとともに、テレビゲームの実施時間やテレビ等の視聴時間も長く、携帯電話の利用率も高い。
  - ・「学習塾（家庭教師を含む）に通っている」児童は6割程度で、全国に比べて多い傾向にある。また、「学校より難しい内容・進んだ内容を勉強している」児童も3割を超え、全国に比べて多い。
  - ・「平日、学校の授業以外に3時間以上勉強している」児童は2割程度である。一方、「30分より少ない」という児童も2割程度と、ほぼ同数である。また、「休日、4時間以上勉強する」児童が2割近く、「全くしない」児童も2割近くであり、これもほぼ同数である。学校以外の学習時間には、児童による差が見られる。
  - ・「平日、テレビゲームを1時間以上している」児童は5割程度であり、「2時間以上」でも2割を超える。
  - ・「平日、テレビやビデオ・DVDの視聴時間が1時間以上である児童は8割を超えており、「4時間以上視聴」している児童も2割を超える。
  - ・「携帯電話で通話やメールをしている」児童は4割を超える。そのうち、「毎日している」児童は2割程度である。

#### 4 家庭でのコミュニケーション

○平日に家の人（兄弟姉妹は含まない）と夕食を一緒に食べている児童は、全国と比べて少ない状況にある。また、家族それぞれに生活スタイルがあり、夕食以上に朝食と一緒に食べていない傾向もうかがえる。これは、全国と同じ傾向である。

- ・「家の人と夕食を一緒に食べている」児童は8割を超える。一方、「朝食と一緒に食べている」児童は6割程度である。
- ・「家で食事をする際に、テレビをいつも見ている」児童の割合は5割を超え、「時々・・・」までを含めると8割を超え、食事中にテレビを視聴している児童が多い。これは、全国と同じ傾向である。
- ・「家の人に学校での出来事を話している」児童は7割程度である。
- ・家族の一員として何らかの仕事をしている児童は多く、7割を超える児童が「家の手伝いをしている」と回答している。

#### 5 家庭での学習状況

○「学校の宿題をしている」児童は9割を超えるが、学校の授業の復習や予習にはあまり取り組んでいない傾向がある。

- ・家で「学校の授業の予習、復習」をしている児童は、いずれも3割程度である。学習塾等に通う児童が多い一方、学校の授業内容についての家庭学習の習慣が十分には確立していない傾向がある。

#### 6 学校での楽しみ

○学校で友達と会うことを楽しいと感じている児童が多い。また、好きな授業がある児童は9割を超える。

- ・「学校で友達と会うことが楽しいと感じている」児童は9割を超える。
- ・「学校で好きな授業がある」児童も9割を超える。

#### 7 社会への関心・地域への関心

○今住んでいる地域の行事への参加、自然や歴史に対する関心は低い傾向がある。

- ・「新聞やテレビのニュースに関心がある」児童は7割程度で、全国とほぼ同じ傾向である。
- ・「今住んでいる地域の行事に実際に参加している」児童は4割程度、「自然や歴史に関心がある」児童は3割程度であり、いずれも全国に比べて低い傾向がある。

#### 8 道徳性（規範意識・礼儀・思いやり）

○きまりやあいさつ、思いやりの大切さを理解し、周囲へ貢献したいという気持ちを持っている児童が多い。

- ・「学校のきまりをいつも守っている」児童は8割である。
- ・「近所の人に会ったときに、いつもあいさつをしている」児童は8割を超える。
- ・「人が困っているときに進んで助けている」児童は7割程度である。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思っている」児童は9割程度である。

#### 9 生活の中での体験

○本市の児童は都市型の生活でありながら、自然の中で遊んだり、動物の飼育や植物の栽培経験があったりする児童は多い。

- ・「海、山、湖、川などで遊んだ経験がある」児童は8割を超える。
- ・「動物の飼育をしたり、花や野菜を育てたりした経験がある」児童も8割程度である。

**1 基本的な生活習慣**

- ほぼ毎日朝食を食べている生徒は多い。一方、定刻に就寝時刻していない生徒が4割近くおり、全国に比べて高い傾向にある。
  - ・「朝食をほぼ毎日食べている」生徒は9割程度である。
  - ・「毎日ほぼ同じ時刻に就寝する」生徒は8割程度、「ほぼ同じ時刻に起床している」生徒は9割程度である。

**2 自尊意識**

- 多くの生徒が将来の夢や目標を持っていたり、ものごとを最後までやり遂げた達成感を感じたりしている。一方、自分のよさを見出せず自信をもって行動できない生徒も4割以上いる。これらは、全国でも同じ傾向である。
  - ・「将来の夢や目標をもっている」生徒は7割程度である。
  - ・「ものごとを最後までやり遂げた達成感を感じたことがある」生徒は9割を超える。
  - ・「自分によいところがあると思う」生徒は5割程度、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」生徒は6割近くである。しかし、「自分によいところがないと思う」生徒が1割以上おり、「どちらかといえば・・・」までを含めると4割を超える。

**3 生活の中での時間の使い方**

- 夜型の生活をしている生徒が多い。また、学習塾に通う生徒も比較的多いが、自主的に家庭学習に取り組む生徒は少なく、家庭や図書館で読書をしない生徒が多い傾向がある。さらに、テレビ、テレビゲーム、インターネットや携帯電話などに多くの時間を費やしている傾向もうかがえる。
  - ・「学習塾（家庭教師を含む）で勉強している」生徒は7割を超え、全国に比べて多い傾向がある。「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を中心に勉強している」生徒も2割を超える。
  - ・「平日、学校の授業以外に3時間以上勉強している」生徒は1割程度、「2時間以上勉強している」生徒も4割近くいる。一方、「30分より少ない」生徒は2割程度である。また、「休日に全く勉強しない」生徒も2割を超える。
  - ・「平日に読書を1時間以上している」生徒は1割程度である。一方、「全くしない」生徒は4割を超え、これは、全国と同じ傾向である。
  - ・「平日、テレビゲームを1日当たり1時間以上している」生徒は4割を超え、「2時間以上している」生徒も2割を超える。
  - ・「平日、インターネットを1日当たり1時間以上している生徒」は4割程度である。また、「携帯電話で通話やメールをほぼ毎日している」生徒は5割程度、「時々・・・」までを含めると7割を超える。
  - ・「平日、午前0時以降に就寝する」生徒は4割程度であり、「午前1時以降」の生徒も1割を超える。

**4 家庭でのコミュニケーション**

- 平日に家の人（兄弟姉妹を含まない）との食事や会話をはじめとする、家族とのふれあいの時間が少ない傾向がある。
  - ・「家の人と夕食を一緒に食べる」生徒は7割を超え、「朝食を一緒に食べる」生徒は4割程

度であり、いずれも全国と比べて少ない傾向がある。

- ・「家で食事をする際に、テレビをいつも見ている」生徒の割合は6割を超え、「時々・・・」までを含めると8割を超える。
- ・「家の人と学校の出来事について話している」生徒は5割を超える程度である。
- ・6割程度の生徒が「家の手伝いをしている」と回答している。

## 5 家庭での学習状況

○学校の宿題以外には、家庭で学習をしない生徒が多い傾向がある。

- ・「家で学校の宿題をしている生徒」は7割程度であるが、「学校の授業の予習、復習をしている」生徒は、いずれも3割に満たない。
- ・「学習塾等で勉強している」生徒が7割を超える反面、「自分で計画を立てて勉強している」生徒は3割程度であり、家庭での学習習慣が十分に確立していない傾向がある。

## 6 学校での楽しみ

○学校で友達と会うことを楽しいと感じている生徒が多い。また、好きな授業がある生徒は、小学生に比べると少ないものの8割程度いる。

- ・「学校で友達と会うことが楽しいと感じている」生徒は9割を超える。

## 7 社会への関心・地域への関心

○社会の出来事に関心はあるが、今住んでいる地域の歴史や自然に関心のある生徒は少ない。

- ・「新聞やニュースに関心がある」生徒は64.4%であり、全国とほぼ同じ傾向である。
- ・「今住んでいる地域の歴史や自然に関心のある」生徒は19.7%、「地域の行事に参加している」生徒も25.4%と、いずれも少ない傾向がある。

## 8 道徳性（規範意識・礼儀・思いやり）

○規範意識や人に対する思いやりをもち、周囲に貢献したい気持ちがある生徒が多い。また、近所の人とのあいさつができている生徒も多い。

- ・「学校の規則を守っている」生徒は8割を超える。
- ・「近所の人に会ったとき、あいさつをする」生徒も8割を超える。
- ・「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている」生徒は9割を超える。
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」生徒は6割を超え、「人の役に立つ人間になりたいと思う」生徒は9割程度である。

## 9 生活の中での体験

○都市型の生活をしている生徒が多いなか、自然とのふれあいを素晴らしいと感じている生徒、動物の飼育経験や植物の栽培経験がある生徒が比較的多い。

- ・「海・山・湖・川などに行って、自然の素晴らしさを感じたことがある」生徒は7割を超える。
- ・「動物を飼育したり花や野菜を育てたりしたことがある」生徒は7割程度である。